



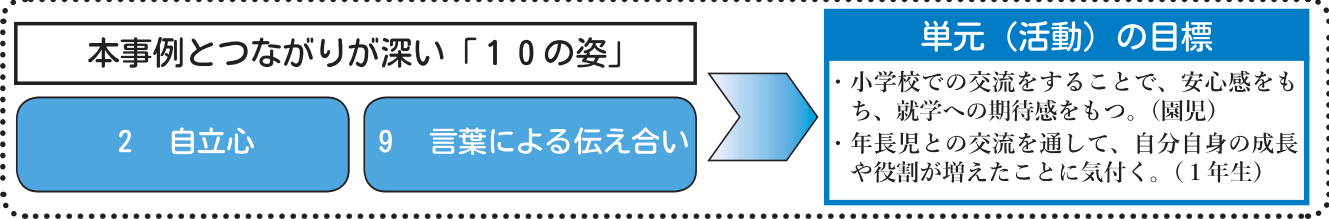
架け橋期のカリキュラム②(事例⑦)の学習指導を行った小学校と保育園が協働作成)

共通の視点		月	5歳児											
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
期待する子ども像			あそびで育つ 輝くさいたまの子											
			【園の目指す子ども像】 あいさつのできる子 よくあそぶ子 おもいやりのある子											
発達段階を踏まえた 先生のねがい 留意点			【さいたま市幼児教育の指針】 ○ありのままの自分で安心して生活する《ゆったり》 ⇒主体的に活動したり、難しい課題に粘り強く挑戦したりする意欲や探求心の育ち ○健やかな体で安全・快適に生活する《すくすく》 ⇒見通しをもち、自信をもって自ら進んで学びに向かう力 ○主体的・自発的に活動する《わくわく》 ⇒思考力の芽生えや主体的に取り組む力・身近な社会生活を通した学びの場の広がり ○自分なりの表現で人やものとかかわる《のびのび》 ⇒主体的・協働的な学びの姿											
期のねらい 具体的な活動内容			4期 【ねらい】 年長児になった事を喜び、意欲的に取り組もうとする。 ・懇談会（就学に向けて） 【ねらい】 様々な活動を通して、友だちとのつながりを深めながらあそびを広げていく。 ・町たんけん受け入れ ・保幼小連絡教育研修会 ・5年次研修、保育参観研修受け入れ（夏休み中） 【ねらい】 友だちと共通の目的に向かって、自分の力を発揮したり、協力したりして生活やあそびを進めていく。 ・1年生と5歳児との交流会の参加 ・あきまつりの参加 ・就学時健康診断への参加 ・保育者小学校等体験研修受講者による園内研修 【ねらい】 就学に期待を持ち、見通しを持って行動する。 ・懇談会（卒園、就学に向けて） ・保幼小連絡協議会											
配慮事項	先生の関わり	○生活主体としての子ども、子どもの思いを尊重する。 ○子ども自身が必要感を持った基本的な生活習慣の習得への意識を高める。 ○遊びの中での試行錯誤を保障する。 ○一人ひとりの遊びの充実と仲間とのかかわりを支援する。												
	子どもの学びや生活を豊かにする環境構成	○安心、くつろぎ、自分らしく過ごすことができる環境づくり ○心と体を十分に動かせる環境の工夫 ○生活の中での気づきを遊びに取り入れ、互いに影響し合える環境づくり ○子どもの豊かな感性を引き出す環境づくり												
園で展開される活動 / 小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構成			○生活に必要な生活習慣を身に付け、その大切さを理解して行動する。⇒生活習慣が自立し、自信をもって生活する。 ○主体的な活動を通して自信を高め、自己を十分に発揮する。⇒満足感や達成感を十分味わい、就学に期待をもつ。 ○身体全体を供応させる動作を楽しむ。⇒全身運動がなめらかになり、積極的に様々な運動をする。 ○自分の思いや考えを伝え、相手の話を聞き自分とは異なる思いや考えに気付く。 ⇒友だちの意見に共感したり、言い合いながら調整し、仲間との関係を深める。 ○数量、図形、時間に興味を持ち、生活や遊びの中で使う。⇒日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心を高める。 ○身近な自然やものを五感で感じ取り、思ったこと想像したことなどを、様々な方法で表現する。 ⇒様々な知識や経験を生かし、創意工夫しながら、遊びを発展させる。											
子どもの交流			・5歳児と2年生との交流（町たんけん）・5歳児と1年生との交流（学校・校庭たんけん、あきまつり、なかよし会） ・中学生の未来（みら）くるワーク ・近隣保育園交流会											
家庭や地域との連携			・懇談会・保育参加・個人面談・なかよしひろば・消防署立会い訓練・防犯ひまわり・ごみスクール・おはなし会 ・図書館訪問、絵本の貸し出し・はみがき指導・就学時健診・新入学保護者説明会											

小学校1年生												小学校2年生～					
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3						
世界と向き合い 未来の創り手として 輝き続ける人																	
【小学校の目指す人間像】 [知]「徳」「体」「コミュニケーション」を身に付け、未来を切り拓く子																	
スタートカリキュラム (入学後、2週間程度) 【幼児期の教育を通じて身に付けたことを生かしながら】 - 生活科を中心とした合科的・関連的指導 1単位時間45分を短時間に区切って実施 - 児童が自然な形で意欲的に学習に取り組めるような課題設定、課題選択の場の設定、工夫した教材作成 等 → 1単位時間が45分となるように段階を追って実施（発達段階及び学習内容に応じて臨機応変に実施） - 各教科等の年間授業時数を確保																	
【ねらい】 学校生活を知り、友だちや先生との信頼関係を築き、安心して楽しむ。 ・学校たんけん・廊下の歩き方 ・並び方（名前順、背の順）・トイレの使い方 ・遊具の使い方・校庭たんけん ・体育着、給食着の着方やしまい方 ・グループごとの下校（色ごとのコース別） ・避難訓練・健康診断 ・給食当番活動、清掃活動、当番活動 ・授業参観・1年生を迎える会・運動会 ・通学路たんけん・水遊び（プール） ・栽培活動（アサガオ）・よみかかせ ・硬筆展覧会				【ねらい】 友だちや先生との信頼関係を深め、安心してのびのびと学校生活を送る。 ・避難訓練 ・校外学習（東武動物公園） ・音楽会 ・5歳児と1年生との交流会 ・就学時健康診断 ・保育者小学校等体験研修 ・あきまつり（5歳児を招待） ・授業参観 ・学校公開日				【ねらい】 できるようになったことが増えたことを喜び、2年生進級に向けての期待感をもつ。 ・学校公開日 ・幼保小連絡協議会 ・なかよし会（小学校のことを伝える等） ・新入学保護者説明会 ・授業参観 ・6年生を送る会 ・お別れ式									
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 ①健康な心と体 ②自立心 ③協同性 ④道徳性・規範意識の芽生え ⑤社会生活との関わり ⑥思考力の芽生え ⑦自然との関わり・生命尊重 ⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 ⑨言葉による伝え合い ⑩豊かな感性と表現				○子ども一人ひとりの学びを最大限に引き出し、主体的な学びを支援する伴走者としての役割を目指す。 ○児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かい、幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を更に伸ばしていけるようにする。 ○インクルーシブ教育システムの理念の構築を目指し、全ての子どもが適切な教育を受けられるようにする。 ○1人1台端末を活用し、学習の基盤となる資質・能力の確実な育成、多様な一人ひとりの興味・関心等に応じ意欲を高めやりたいことを深められる学びを目指す。 ○地域住民等と連携協働し、学校と地域が相互にパートナーとして一体となって子どもの成長を支える。													
道徳教育（相手の気持ちを考える 気持ちや行動を自律的に調整する きまりを守ることのよさを実感する） 各教科等の学習・生活（新しい環境や教科等の学習に興味・関心をもち主体的に関わり 実感を伴った理解を深める 一緒に遊ぶ・話し合う） <table><tr><td><生活>どきどきわくわく1年生 <国語>あかるいあいさつ わたしのなまえ <書写>みつけてみよう かいてみよう <特活>1年生になって <音楽>うたてうごいてみんなでおんがく</td><td><算数>あわせていくつ ふえるといくつ <体育>多様な動きをつくる運動遊び <図工>造形遊び <特活>係活動</td><td><生活>たのしい秋いっぱい <体育>運動会練習 <特活>○○小まつりをしよう</td><td><国語>国語の学習を振り返ろう <算数>1年の復習 <生活>もうすぐ2年生 <特活>さよなら集会をしよう <G.S>体を使って遊ぼう 振り返り</td></tr></table> ○生活科を中心に、時間を弾力的に取り扱い、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割を設定する。 ○個と協働を往還する児童同士の学び合いを重視し、試行錯誤しながら実感を伴った理解を深めることができるような単元構成にする。														<生活>どきどきわくわく1年生 <国語>あかるいあいさつ わたしのなまえ <書写>みつけてみよう かいてみよう <特活>1年生になって <音楽>うたてうごいてみんなでおんがく	<算数>あわせていくつ ふえるといくつ <体育>多様な動きをつくる運動遊び <図工>造形遊び <特活>係活動	<生活>たのしい秋いっぱい <体育>運動会練習 <特活>○○小まつりをしよう	<国語>国語の学習を振り返ろう <算数>1年の復習 <生活>もうすぐ2年生 <特活>さよなら集会をしよう <G.S>体を使って遊ぼう 振り返り
<生活>どきどきわくわく1年生 <国語>あかるいあいさつ わたしのなまえ <書写>みつけてみよう かいてみよう <特活>1年生になって <音楽>うたてうごいてみんなでおんがく	<算数>あわせていくつ ふえるといくつ <体育>多様な動きをつくる運動遊び <図工>造形遊び <特活>係活動	<生活>たのしい秋いっぱい <体育>運動会練習 <特活>○○小まつりをしよう	<国語>国語の学習を振り返ろう <算数>1年の復習 <生活>もうすぐ2年生 <特活>さよなら集会をしよう <G.S>体を使って遊ぼう 振り返り														
・校庭への散歩、遊具あそび・学校めぐり・運動会練習見学・どんぐりひろい（公園）を一緒に行う・授業を見る ・生活科の授業での交流（学校・校庭たんけん、あきまつり、もうすぐ2年生、なかよし会）																	
・入学式・授業参観、懇談会・学校公開・個人面談・チャレンジスクール・運動会・昔遊びの会・就学時健診 ・給食試食会・新入学保護者説明会（持ち物の説明）・生活科の授業・学校公開日（園児・保護者）・音楽会																	

※「さいたま市幼児教育の指針」「学習指導要領解説 総則編」より一部引用

事例⑦ 1年生・10、11、2月
期のねらい「できるようになったことが増えたことを喜び、2年生進級に向けての期待感をもつ。」
「小学校と園との継続的な交流活動—1年生の経験を生かしてわくわくを伝えよう—」



子どもの姿

小学校生活に慣れ、友だちや先生との信頼関係を基に、安心して学校生活を送る姿が見られるようになりました。できるようになってきたことも増えてきて、楽しいと感じることが多くなってきました。

5歳児クラスの子どもたちやその保護者にとって、小学校は未知の世界で、不安な要素がたくさんある場所です。わくわくした思いでスタートできるように、入学前に少しでも心配な気持ちが軽くなること、「小学校は楽しいところ」という印象をもてるようにすることを大切にしています。

1年生にとっては、そのスタートの手助けをすることで、お兄さん、お姉さんとしての自覚が芽生え、自身の成長に気付いたり、2年生になることに期待感をもったりすることにつながると考えます。

学びのはじまり

1年前の自分を振り返り、どんな思いだったのかを聞き、不安や心配がたくさんあったことを思い出せるようにしました。安心して楽しく学校生活を送っている今と比較し、5歳児さんの不安や心配が少しでも軽くなるように1年生として、どんなことができるかを子どもたちなりに考えました。その中で、自分たちの成長を一つでも多く実感することができるよう、共感的に話を進めました。

子どもたちからのアイデアをもとに、10月に校庭遊び、11月にあきまつり、2月になかよし会など、交流できる場を複数回計画しました。5歳児の子どもたちが、「小学校っていいな」と感じられることを目指しました。

学びの広がり、学びの深まり1

校庭を案内している場面

校庭を案内している場面

遊び方を教えている場面

名前のひらがなを教えている場面

教師の お願い・思い ◎配慮事項

○5歳児の不安な気持ちに寄り添って、優しい気持ちで交流できるようにしたい。

○自分より年下の子どもたちと関わることで、お兄さん、お姉さんの意識の芽生えにつなげたい。

◎1年前の自分たちの気持ちを想起させ、5歳児の今の不安な思いをイメージできるようにする。

◎5歳児に向けた優しい言葉かけや、親切にしようとする場面を言葉や表情で認め、自信をもって5歳児と関わるようにする。

○5歳児の子どもたちが、小学校っていいな、と感じられるように…目的意識、相手意識を明確にすることで、意欲的に活動に取り組めるようにしたい。

◎どんな接し方をしてもらえとうれしいか、5歳児の気持ちを子どもたちと一緒に考える。

◎「すごいね」「○○のやり方がいいね」と認め合うことで、意欲や自信につなげていく。

◎周りの子の様子を見合う時間を設定することで、友だちのよいところを取り入れ、活動に取り組むことが難しい子どもも取り組みやすくなるようにする。

10の姿との関連、自覚的な学びへ向けたポイント

① 交流活動を継続する中で、関わりや言葉掛けを工夫する（9 言葉による伝え合い）
1回目の交流活動では緊張した様子だった1年生も、継続して行うことで、リラックスして5歳児と関わるできるようになっていきます。「次はもっとこうしてあげたい」「こんな言葉を掛けたら嬉しいかな」次の活動を楽しみにしながら、5歳児のためにさらに工夫してみたい気持ちが育っていきます。

② 交流活動を通して自分自身の成長に気付く（2 自立心）
入学して一番年下だった1年生が、交流活動を通して新1年生に教えてあげる役割を担うことは、年下の子どもたちに優しく接することができる自分、成長した自分自身に出会うことにもつながります。教師は事前の準備を丁寧に行うことで一人ひとりの児童が自信をもって交流活動に取り組めるようにしています。

教材等の工夫

児童が主体的に交流活動に参加できるように

交流活動の前に、入学前の5歳児の気持ちを考える時間を設けた。「給食おいしいかな」「休み時間遊べるかな」というワクワクした気持ち、「勉強難しいかな」「大きな声で発表できるかな」というドキドキした気持ちがあることを確認し、自分たちにできることを主体的に考えることにつなげていった。

交流前の準備として、子どもたちと話し合う時間を設けた

小学校が中心となって：園と保護者への協力依頼

学区内の保育園2つには、小学校側から声を掛け、あきまつり、なかよし会とも参加してもらい、交流できるようにした。

なかよし会には、本校就学予定の家庭すべてに周知し、保護者引率での参加をお願いした。保護者には、廊下から子どもたちの様子を見てもらった。

全員で120名程度(約8割)の参加があった。

なかよし会で集まる様子

保護者の声

学校生活の具体的なイメージができた。

雰囲気分かり、親子で心積もりができた。

1年後の姿が想像でき、学校生活への不安が減った。

普段使っているものを実際に見ることで、入学準備の参考になった。

児童の感想

れんしゅうのときにくらべる

とじょうずになった。じゅんぴは大へんだけど、年長さんたちがたのしんでくれるとおもうとがんばれた。

学びの広がり、学びの深まり2

教師の お願い・思い ◎配慮事項

交流③学校たんけん—入学してきた1年生と（5月）

新1年生に学校を案内することを通して、上級生になった喜びを感じ、自信をもって2年生をスタートしてほしい。

◎昨年度の交流での関わりを思い出し、新1年生に会えることへの期待を膨らませるようにする。

◎事前に2年生のみで学校探検を行うことで、自信をもって交流できるようにする。

学校たんけんを通して“学校のひみつ”を探していく

学習の評価方法、児童の変容

○交流会に向けた準備として、話し合い活動を行い児童の思いや考えを表現する場を設ける。

○交流中には、5歳児の思いに耳を傾けたり、伝え方を工夫したりする姿を見取り、活動後に児童が感じたことを言葉で表現する場を設ける。

○準備が大変だと感じても、最後まで一生懸命5歳児のことを考えて作業に取り組む姿が見られた。また、自分から積極的に、5歳児の手を優しくつないで、色々教えながら案内する姿も見られた。